

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築事業		路河川名等	(一) 弘沢茅野線				
事業毎の通番		19	市町村名	茅野市	箇所名(ふりがな)	坂室(さかむろ)			
事業概要	事業目的	(一) 弘沢茅野線は原村を起点とし、国道20号を重用し茅野市中心部を結ぶ県道で、第2次緊急輸送路でもある。国道20号交差点では、通勤時間帯に渋滞を引き起こし、またJR中央本線との立体交差が幅員狭小のため交互通行となり通行に支障が生じている。このため、JR交差部の改良、国道20号交差点の改良等、茅野市中心地へのアクセス道路として安全で円滑な路線となるような整備を行い、利便性の向上や地域の安全に寄与するものである。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	茅野市都市計画区域マスタープラン							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	平日交通量：5,450台/日							
	着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	1.0		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=700m、W=6.0(8.0)m			450,000	270,000		162,000	18,000
	年度事業内容(主な工種)								
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	安全・安心で快適な道路交通の確保						
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の強化						
評価の視点	必要性	代替道路の有無：(一) 神ノ原青柳停車場線は未改良区間がある						評価	
		交通結節点アクセス：茅野駅へのアクセス道路(1次アクセス) 医療・福祉・教育施設との連携：原村中心地(病院・福祉施設・小中学校)へのアクセス道路 地域の活性化：通行制限(片側交互通行)区間の解消						A	
	重要性	関連計画、重点施策との整合：茅野市都市計画区域マスタープラン						評価	
		緊急輸送路の路線指定：県緊急輸送路(2次)に路線指定 地域指定：地震防災対策強化地域						A	
	効率性	費用対効果(B/C)：2.5						評価	
		事業期間：5年 コスト削減含む比較検討：コスト削減に関する工法比較検討予定 他事業との連携：国道20号坂室バイパス						B	
緊急性	事故件数：1件 朝夕の局部的現象を緩和する：JR交差部屈折狭隘箇所解消により通行の安全性を向上 歩道整備：歩道計画なし 現況の幅員：5.0m						評価		
	B						B		
計画熟度	事業情報の共有：周知していない						評価		
	地域の取り組み：協力的である(茅野市、原村より要望あり)						C		
部意見	事業の必要性、重要性が高いが、地域の合意形成など計画熟度が低いため、事業化を見送りたい。		行政改革課意見	必要性、重要性が認められる。		評価結果	総合評価	B	

事業概要説明図表	位置図			
	平面図			
事業周辺環境	交通状況			
	道路横断面の構成	<p>標準横断面</p>		
事業概要説明図表	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一) 弘沢茅野線は原村を起点とし、国道20号を重用し茅野市中心部を結ぶ県道で、第2次緊急輸送路でもある。国道20号交差点では、通勤時間帯に渋滞を引き起こし、またJR中央本線との立体交差が幅員狭小のため交互通行となり通行に支障が生じている。このため、JR交差部の改良、国道20号交差点の改良等、茅野市中心地へのアクセス道路として安全で円滑な路線となるような整備が望まれている。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	茅野市から例年要望があり、茅野区域マスタープランの中において10年以内着手箇所指定されている。また、原村においても通勤等において重要な路線となっており、強い要望が寄せられている。		
	③事業説明等の経緯			
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	長野県5年計画(調査箇所)、茅野区域マスタープラン		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	土羽構造による緑化の検討。		
	⑥地域活性化への影響と配慮	茅野駅と原村中心地を結ぶアクセス道路として暮らしやすい生活環境の形成及び地域の活性化が期待される。		
	⑦その他	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 58' 37" 70 東経:E 138° 10' 11" 06	